

ダイハツディーゼル(株)の事業基盤強化計画(抜粋)

企業概要

- 1966年、ダイハツ工業株式会社から船舶用および汎用のディーゼル機関の製造を行う大阪事業部が分離して設立。機関製造の歴史は古く、1907年までさかのぼる。
- 中速ディーゼル機関を中心に、発電用原動機関の製造及び保守サービス等を行っており、大型外航船用発電機関市場では世界シェア26%を占めている。
- 近年では船舶からのGHG排出量削減ニーズに応えるべく、LNGを燃料とする二元燃料(DF)機関をいち早く開発・シリーズ化し、これ迄150台以上受注している。



計画の概要

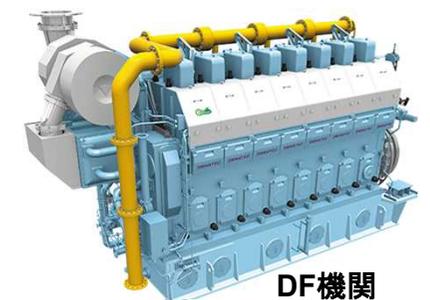
- 在来燃料(重油、バイオ燃料等)機関及びLNG燃料DF機関について、燃料消費率の改善やより混合度の高いバイオ燃料への対応を進める。LNG燃料DF機関については、さらにメタンスリップ※量削減等の性能向上を図った新機関の開発・供給を行う。

※LNG燃料の主成分であるメタンが機関内部で燃焼されずそのまま排出されること

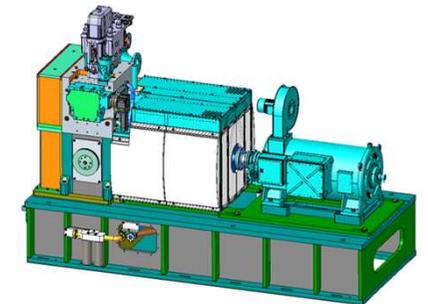
- 船舶のGHG排出量削減に効果のある水素、アンモニア、メタノール燃料等の次世代燃料に対応する機関技術の開発を進める。
- 次世代燃料にも対応可能な機関製造設備の整備を進め、生産効率及び製品品質の向上を図ると共に、次世代燃料機関についても、各種燃料供給インフラの整備状況等を考慮しつつ、そのタイムリーな市場導入に向けた体制整備を進める。

<計画実施期間> 2023年4月～2028年3月

<実施場所> ダイハツディーゼル(株) 守山工場(滋賀県守山市)、姫路工場(兵庫県姫路市)



DF機関



次世代燃料研究
用単気筒試験機